

全 体 学 習 後 の 感 想 文

～ 2 年 E 組 よ り ～

◆まちにまった今日25日の全体学習。昨日の夜からドキドキしてお母さんや姉にどうしようどうしようと言うばかりでした。いよいよ本番。体育館に入ってイスに座って周りを見わたすと人、人だらけで緊張感が高まりました。私は友達と“緊張するウ”とか言っていたけど「サライ」を歌いだしてからまったくというほど緊張感がなく、いつもの教室で授業をするような感じになり恥ずかしくもありませんでした。

今日一番うれしかったことはあんなに人がたくさん来ている中、発表できたことである。今日の朝、お母さんや姉に“絶対発表してくるけん、絶対”と言って学校へ来ました。私は発表するときそんなに勇気もいらなかったし、言いたかったですと手を挙げました。去年は全体学習のとき、緊張しまくって手も挙げられなかった私が、今年勇気もいらず手を挙げられて自分がすごく不思議です。

Mちゃんの発表のとき、ザーザードシャドシャ雨が降っていたのに、Mちゃんの涙の発言のときピタッと雨がやみ、パッと明るい日差しがみんなを照らしました。私はその時涙を流して発言したMちゃんに対して、お日さんが雨に勝ってパッと明るくなってMちゃんに元気づけてくれるっていうか応えてくれたっていうかそんな気がします。私はそのことでKちゃんといろいろ話をしました。

私思うけど発表できたのは班のみんなのおかげだと思います。みんな“発表しい”とか“発表するけんしてよ”とか言うと自然に手が挙がります。私は班を作ったことはとてもいいことだと思います。

もう本当に今日はいい日でした。そして、何よりうれしかったことが、わざわざ遠いところから来てくれた人たちが最後に大きな拍手をしてくれたときものすごくうれしかった。一番それがうれしかった。本当に今日は一生に残る思い出が一つできました。このことは一生忘れないと思います。森口先生が“時間があつという間にすぎるぞ”っていつていたことは本当にそうです。あつという間に時間がすぎました。私にはもっと時間がほしかったです。すごく短く感じました。本当に今日はすばらしい大好きなとてもいい日でした。

◆う～んすつきりした。自分の中にあるもの出しきってしまいました。言いたいこと言えた。間違ってそんなにあかなかったし今までの部落問題学習の中で一番よかったと思います。

「2Eの授業感動した」って言ってくれた人がいました。なんかうれしかった。6時間目のあと何人もの友達が「Mちゃんすごい」とか「あの発表よかったよー」って言ってきてくれた友達がいました。

25日は朝から数えきれないくらいいろんな子が「がんばりよ」って言ってくれました。職員室入ってもいろんな先生が「全体学習がんばりよ」って応援してくれました。みんなのかけてくれた言葉が私のエネルギーになった。私のエネルギー源は友達です。友達のみんなの言葉です。だから25日はがんばろうっていう気持ちがいつも以上にモリモリわいてきたんです。あんなに発表したのは初めてです。

サライの歌は2Eが解散する終業式の日までずっと歌っていきたいです。このメンバーで。先生が名付けたあの“びっくり箱クラス”で。

◆今日は帰ってお母さんと話をした。ちよつともめてしまった。母「今日、前にすわつとる人寝

とったんじよ。もうすごいコックリコックリしとってな。眠たかったんだろなあ。ほなけん『あんた何しに来たんで』って言うたろうかいなと思ったし、コーヒーでも買ってあげようかいなと思ったわ」私「なんでその時『何しに来たん』って言わなかったん！」母「ほんなんほっときなだ」私「ほっとくわけにはいかんでえ」母「別にかんまんでえ」私「今日の全体学習、私やの問題だろ！」母「ほらほうやけど眠たいけん寝とったんやしほっときな」私「ほんなんほっといたら差別なくならんでえ。そこから始まるんじよ！」母「どうせ差別なくならんでえ」私「ほんなこと言うけんなくならんので」母「ほらほうやけど……」

もう私はその時ものすごくハラがたってよそへ行きました。涙が出てきました。すごくくやしくてそのいかりは消えていません。この記録ノートに書かなおれんかった。ほんでしばらくして母が話しかけてきたけど、あんまり口をきかなかった。母「おこつとんで」私「ほらほうじやわよ!!」母「もういいかげんにしなよ」私「お母さん口ゲンカで負けたくないけんそうやっていっぱい言い返しよんだろ!!」母「おまはんどうしてそうや、ってこだわるようになったん」私「今日勉強してよ〜くわかったけん」

それから口はきいてません。今日の全体学習でほんまにほんまにがんばらなあかんと思ったからです。あの時はごっついハラたって家とび出したろかと思った。

◆何から書いていいのかわからない。今時計を見上げるともう8時になりかけている。いつのことだったろう。私の手が空気を割いたのは。私はあのとき何を言った？どんな顔で？吉成先生の表情は？クラスメイトの反応は？何も覚えていない。本当に。

ただ胸が熱かったことだけが思い出される。ちょっと人が集まるとすぐ緊張してビクビクする。ちょっと暗いと風の音までこわい小心者の私。そんな私が中学校に入って部落問題学習をする中で初めて手を挙げた。話した。何が私を変えたのか、私にはわからない。

言いたいのは、書きたいのはこんなことじゃない。こんなことじゃないけど今は許してほしい。次から次へとこぼれ落ちてくる涙がそう言っている。吉成先生聞いてください。私の心の叫びを耳をすまして聞いてください。

MちゃんRちゃんAちゃんYちゃんMちゃんありがとう。板野中学校2年E組のみんな本当にありがとう。板野中学校のみんなありがとう。先生たちありがとう。今日聞いていた人たちありがとう。そして、私を導いてくれた吉成先生ありがとう。私は自分の居場所を見つけました。ここに数万回のありがとうを書きたい。あの場所にいた人の名前をすべて書きたい。私はこの思いを忘れずに残しておきたい。

私がいつか大人になってわが子に話すべき時がきたらあの時の空気の色を教えてあげたい。マイクを切って座った瞬間のあの気分を教えてあげたい。今の私はまだうまく書き表わせないけど、まだとても小さいけれど、今日ここに板野中学校2年E組吉成学級にいられたことが私の喜びであり誇りでした。

◆今日全体学習だった。もう始まるまでは緊張のしまくりだった。けど、みんなでサライを歌ったときなんかわからんけど緊張がふっとんだ。だから見に来ている人とかもたいして気にならなかつたです。ほれにY先生が「絶対先生発表するけんYくんもがんばろうなあ」って言ってくれたので絶対がんばろうと思った。

話は変わるけど1年生の子が言っていたという「板野町に部落があるけん差別される。板野町に部落があるって言わなかったらいいんじや」といったことで、ぼくはもうれつに腹が立ちました。もし部落外の人が部落というのをかくしてたら、その部落に住んでいるぼくたちのふるさと

が消されるということです。そのふるさとに住んでいるぼくたちの存在がなくなるということだと思います。先生がよく言っている「かくされる命なんかない、すべての命が尊重されなければならぬ」ということがなんとなくわかったような気がします。

今日「学校」という映画をみた。その中で韓国人のひとと中学校の先生が話をしている場面での先生が「どうしてもっと自分を誇りに思わないの」と言っていた。その言葉が心に残った。それともう一つ、最後に「授業はみんなで汗を流してつくっていくもんだ」と言っていた。吉成先生と同じことを言っていた。2Eでもこんな授業をつくっていきたいと思いました。

◆今日の全体学習は本当に緊張した。全体学習やっているときも緊張してなかなか手が拳がらなかった。手を挙げても言っていることがわからなくなってこわかったです。いつも以上にやればいいと思っていていつも以上にできて本当によかったです。成功したかしなかったかというどっちかわからないけど、いつも以上の話し合いだから成功したんだろうと思う。終わったあとは何も感じなかったけど何かほっとした感じです。6時間目も1回発表できてよかったです。けどももっともってがんばれたかもしれないのがんばれなくてくやしかったです。

全体学習終わったあとで河野先生が「ようがんばったなあ、これからがんばろうなあ」と言ってくれた。本当にうれしかった。本当にがんばってやろうという気になった。こんな先生がたくさんいる板野中学校にいて本当によかった。

板野は本当にいいところだと思う。板野に住んでいて本当によかった。みんなの言っているまがいを覚えて板野はいいところだと思わせてやりたい。そのためには全体学習をがんばり、いろんなところでがんばりたい。自分のふるさとを胸はって言える日がきてほしいです。

～その他のクラスより～

◆最近になってほんとうに生活の中に部落差別が入ってきました。毎日学校でフツと思ったり、家に帰って机にすわったりすると、全体学習や先生の話とか思い出して、自分はどうかと思うようになりました。

何か今、部落問題学習に取り組むことが私の日常になってきたと思います。全体学習が終わっても頭の中でいろいろ考えてみたりもします。時々腹立ったり納得したり重たくなったり楽しいなあと思ったりします。

みんなで放課後残って話し合ったその日にHちゃんに電話しました。ちよつとけんかみたいというけんかしたとき、「私はRちゃんやけん自分が部落って言うたんじょ」と言ったことが頭から離れんかって今日電話してみようと思ったし、河野先生が「あいついつも泣きよる」と言ったのを聞いて絶対電話しようと思いました。私、Hちゃんとけんかするまで親しかったのに、それまでに1回もHちゃんのつらい思いを聞いていなかったと思います。今までHちゃんは一人で悩んでいたんだろうかと思って、自分に腹が立ったしなげなくなりました。

Hちゃんに電話したときびっくりしとったけど、Hちゃんも同じように私といつ話せるかと思っていたと言っていました。もし部落問題を学習していなかったらけんかしたまま終わっていたように思います。今、とてもゆつくりだけどもとにもどってきています。

今日も学校の帰りに会ったけど、「バイバイ」って言ってくれて、とてもなんかHちゃんが遠いところから手をふったけど近くに思えました。今必死に闘っていると思います。クラスでもつらいと思うことがあるって言よつたし、友だちに自分が部落出身だということをやつとの思いでうちあげたと言って、言葉を返してもらったのでよつたかとも言っていました。そして、Hちゃ

んから手紙をもらったんだけど、お母さんと12時近くまで話したと書いていました。全体学習で発表したことも書いていました。Hちゃんはどんな思いで発表したのだろうかと思いました。私はそのとき何しよったんだろうかと思いました。Hちゃんが12時までお母さんと話しよったときに私は何をしよったのかそれさえ思い出せません。自分に腹が立ちます。

話は変わるけど、全国の人が部落差別に対して無関心な人が多いと思っていたのにごつついはんぼりよる人がおるっていうことがうれしくてうれしくて涙が出そうでした。私もがんばれるという思いになりました。私は絶対差別は許さんという気持ちがどんどん強くなってきました。どうして私の友達が苦しんどあかんと叫びたいです。今、すっごく私にとって部落問題は大切なものとなってきています。そして今、自分に何ができるかがとても大切だと思います。部落出身の人だけ苦しむのはおかしいです、絶対に。私も一緒に考えたい、そう思っています。なにかこの問題考えよったらごつつい自分をさらけ出すことができます。この何日間か先生と一緒に話したい気持ちでいっぱいです。今まで自分を押しさえていた思いがとび出しそうです。部落差別の問題が、なんか今の私の支えでもあるといえます。

私は板野中学にきてすっごく誇りに思います。板野町でよかったです。これほどあったかい町はないと思います。

この間発表したけど、友達って心から何でも話し合える人のことをいうと思います。やっぱり部落問題をさけると人とは本当の友達にはなれんと思います。ほんまに今ごつつい心を動かされています。

私に差別解消という希望の光がほんの少しだけ見えてきました。先生には見えますか？先生とも一人の人間として同じようにがんばってほしいです。

◆全体学習に県内からも県外からもたくさんの人が来ていて、300ぐらい椅子を並べていたのに全部座っていて、空いている席がないぐらいでした。小学校の先生もたくさん来ていました。全体学習が始まる前、座って友達と話をしていたら、一人の男の人が「いつからこの全体学習をしているの？」とか、「今日で何回目？」とかいろいろ聞いてきました。それで私のファイルを見て「よく勉強してるね」って言ってくれました。全体学習が始まる時も「がんばってね」って言ってくれました。

全体学習が終わったときに来ていた人たちが拍手をしてくれました。それと男の人が「おつかれさま」って言ってくれました。椅子やシートをかたづけるときも手伝ってくれた人もいました。この徳島の板野中学校の全体学習をみにきていた東京や福岡の人たちに、板中の全体学習のことを全国の人たちに話をしてもらって全体学習を広めてほしいと思います。

◆このあいだの全体学習は私も胸が熱くなるものを感じました。それは何といっても連続するというより意見が次々につながるからです。しかも学年なんか関係なく。

3年生の先輩たちはすばらしいと思いました。15年間の自分の生きざまを、親にしばられていた生活を、自分の感じた差別やしていた差別、きれいごとなしに全部話していました。その時にわかりました。こういうことを言ってこそ本当の自分を磨くことができるんだと。

なかでもTさんがすごかったです。何のとまどいもなく何百人もの前で自分の願いや苦しみをさらけ出すのでした。その姿は不思議に未来の解放を物語っているようでした。Tさんの目は輝いていました。私も彼女のようになりたいと思いました。

私は大勢の中で話をするのはとても苦手で今日も意見を見守るだけでした。その中でももっとも集中したのが、3年生のある人の意見で「1年生はきれいごとを言っている。本音で言っとれ

へんのとちがうか」という感じのもの。それに必死になって「私たちは自分のために自分の思うこと、こんなにまでして言よんのにそれをきれいごとなんて言うんですか。私たちは差別と闘うために自分の意見や苦しみを言い合って語っていきよんのにきれいごとなんて言わないでください」と1年生が返していきました。3年生の先輩と言い争いになるなんて思ってたけれど、1年と3年はお互い注意し合えるような関係なんだというのを少し感じました。真剣に聞き、真剣に話し合うことから全体学習ははじまっていきます。

この日は全国からたくさんの人々が集まってくれました。心からお礼が言いたいような感じでした。全国の人たちと共に私もがんばりたい。

◆先輩の意見は本当にすごかった。私より深く考えていっている先輩の言葉は本当に心にしみ込んだ。心に決めていること、差別をなくしたいっていうみんなの思い。本当に一つになれたような気がした。でもやっぱり「しんだい」って考える人がいる。私はそんな悲しい感情をもっている人に何ができるだろうか？実は私にはそういうことを考える余裕はない。今の自分がそんな悲しい方向に向かっているかもしれないから。私自身の中で込み上げてくるものがないっていうこと。私が今、ズにのっているせいだと思う。私の意見や取り組みをすごいって言ってくれる人がでてきて、私はその言葉にのせられてきっと弱くむなし人間になっている。私は自分で「そんなにすごいんだなあ」って鼻を高くしているにちがいない。心のどこかでそんな気持ちがあるんだ。「私はすごいんじゃ」っていばっているんだ。私は自分にかりをもっている。私ってそんなにすごいやつでない!!人のこと外見で見てちがう目でみるところがあるのに。こんなふううぬぼれとうけん成長できん!!もっと考えな!!って本当に自分に呼びかけないかん。こんな思いもつけんいつまでたっても差別がなくならん。もっと自分のみにくいところ見つめて、人のことを自分にひきよせて考える。差別をなくすんって本当に努力が必要なんだ。今回の授業でそのこと本当に感じた。

◆体育館に入ったとき、すごく多くの人が入ってなんだか緊張しました。けど、何か意見が言えるような気がする・・・と思って入場しました。

2Eがよくがんばっていたのがわかった。中でも心に残ったのが親せきのI君の発言だった。「ぼくのお父さんはお母さんのお父さんに結婚を反対されていた。けど、お父さんは説得して結婚を許してもらった」ぼくのお父さんはI君のお父さんと双子の兄弟である。家に帰ってお父さんに聞いてみた。するとそれはすごい話し合いだったらしい。

その後の6時間目、1年生からどんどん意見がでた。これはぼくが今言うとならあとぼくの意見に続いてくれると思った。すると3年生の先輩が「1年生はきれいごとと言よる」と発言した。するとあげようとした腕が重たくなった。「まさかぼくが言ようとしている意見もきれいごと・・・!？」と思った。また下へ向いた。するとMさんが手をさっとあげて「きれいごとや言よらん」と言った。びっくりした。そのあとの3年生の発言に「ごめんなさい」と一言入っていた。1年生の意見も3年生をつらぬいた。そのあとぼくも言おうと思ったけど、悲しいけれど手をあげれなかった。ぼくの周りの人はどんどん言っているのに……。理由はやっぱり言うたらまわりの目が気になったから。少しして考えてみるとなさけなかった。だからK君やM君みたいにたくさん言わなくてもいいからせめて1回でも堂々とみんなの前で言いたい。

◆今日という日、それは一生忘れられない日だった。

本音を語り合った全体学習でいろいろな意見がでた。その中で自分の両親のことを堂々と語っ

てくれた2Eの先輩。私はこの時初めて自分の親のことを考えてみた。私の両親は部落差別から逃げています。“あそこの子と遊ばれんよ”とかは全然言わないんだけど、今私がみたところでは逃げています。これからは堂々と親のことをクラスで言いたい。これはほんとうのほんとうに言いたい。

“私たち部落の人間がおらんかったら板野町（板中）は悪いと言われんない”そんなことないと思う。私はこの言葉に今でもむかついている。ほな自分は部落差別しよらんの？って言いたかった。

最後に全国の先生方が拍手してくれたとき、私はうれしかった。今日生きててよかったなあって思いました。

今日残念だったことは一部の子がふざけていたことと、今日2Eにかわって1Aの全体学習ができなかったことです。

1994年11月25日、それは私にとって一生忘れられない日になりました。

◆私はみんなの意見を聞いている中で“ふるさと”とは自分にとってどんなものなのかと考えさせられた。私は5時間目、2Eがした授業で「うわさの板野やなあ」っていうのを聞いたとき、物凄く腹が立った。板野のこと何も知らんくせに。

なんで“部落差別するんな”って思っすぎて苦しかった。でも今でもその人は板野はこわいところって思っているんだろう。とてもおろかだなと思った。それとMさんが言ったように3年の先輩が「キレイゴト言よる。1年は……」と言ったとき、腹が立った。でもそうなんかなあ……と考えさせられた。私ももしかしたらキレイゴト言よるかもしれない。でもそんなの気にしてたら前へ進めんって思った。

やっぱり私はこの板野町を好きになれん。やさしい人もいればイヤなやつもいる。けど一番いやな理由は“自分が部落やなかったらええのに”って思う自分があるからです。そんな心があるからずっと200年以上も部落の人たちは苦しめられてきたんだと思う。

だから私はこの板野町を好きになります。無理に好きになろうとするのではなくて、板野のいいところを見つけて自分で納得して、そしてふるさとを、自分自身を誇りに思えるようになりたいです。

◆25日の全体学習、ようけの人の数にびっくりした。先生は気にするなって言よったけどなんかやっぱり気にしてしもうた。

5時間目の2Eの授業の中で親のことがでてきたけど、ぼくは父さんが会社から疲れてもなくて親孝行みたいなんできんけど、ぼくやの気持ちわかってくれとるし、部落差別のこととか話してくれるし、ほんな父さんがぼくは好きじゃって思った。

ほれと6時間目に1Cの話し合いの中ででた「部落の子がおるけん差別があるんじゃ」っていう意見のことで考えよったらやっぱり教室で言うたようにほんなこと言うたやつに対して「お前らがほんな考えもっとうけん差別残るんじゃわ。ほれに部落っていうもんはどこにあるんな。今まで何で残ってきたんな。ほれはお前らに自分より以下がほしいっていう心があるけんだろ。ほれが差別、部落差別の本質、正体、ほれが差別の構造ってことをはよう気づいてほしい。本当のものっていうんを気づいてほしい」って思った。

◆今まで自分に正直になったことがなかった。私は勉強の能力はあまりいいことないけど、この問題になるとすごい頭が働いて自分をかばっていた。今でもそうであると思う。私自身、この問

題に正直になれずにいた理由っていうんはふたつある

一つは他のクラスや自分のクラスの中でも受験のために勉強ばかりに励んでいる子がおる。そんな子みよったら何か自分はほの分だけ時間、勉強以外に使ってもったいないって感じる。別によそのクラスとスポーツ大会やはしたくない。けど勉強ってなったらすごい反応する。それでこの授業に自分が熱中したらどうしても勉強できんようになりそうでいやだった。

ふたつめは、正直になってきたないものみせたら弱みにぎられたようでいやだった。絶対、うちのクラスって発表せん子がおる。その子に正直な気持ちうったえても反応してくれんと、自分だけきたないものみせるって考えたらこわい。

けどこの全体学習でこのふたつの考えが少し減ったように思う。

やっぱり誰でもみんなが正直になってきたないものみせるんいややと思う。けど一番最初に誰かがみせなあかんのやと思う。その先頭になる子は学習会に行きよう子やと思っていた。けどそれは違う。それは私であつてもいいと思えるようになった。

今日の全体学習でNさんという子が「『私は今差別しよる』っていうことをずっと言い続けたい。私はこれから先、ほんまに差別がなくなるんか知りたい」って言ったとき私も同感だった。けど、なくなるんか不安やけど、なくなるんかなくならんのか心配やけど、なくなることを信じて、ここでこの学習を終わりにせんところって考えとる。この問題ってあきらめたらおしまいやと思う。



全 体 授 業



「峠を越えて」販売（於 新町小学校）